

## 南九州地域の発展を図る 南九州総合開発協議会を開催

7月6日、南九州総合開発協議会総会が天守閣で開催されました。総会後には講演会が開催され、国土交通省九州運輸局の玉木良知局長が講師として登壇。玉木局長は「自分の住まちを愛すること。その気持ちが観光客に伝わると、自然と魅力あふれる観光地として認識される」と話しました。



南九州総合開発協議会は、南九州地域の発展を図ることを目的に設立され、宮崎県と鹿児島県の6市3町で構成されています。



西諸県地区保護司会窪田英二会長が、法務大臣のメッセージを代読。地域に根ざした運動の推進を求めました。

## 地域のちからを結集して 犯罪のないまちづくりを

第61回社会を明るくする運動の強調月間が7月1日からスタートし、同日、小林市役所でメッセージ伝達式が行われました。式には、西諸県地区保護司会、小林市民生委員・児童委員協議会、小林地区更生保護女性会の会員ら45人が参加。式後は、運動推進の街頭キャンペーンも行いました。



最後は、児童による手作りのうちわと、利用者手作りのポケットティッシュカバーを笑顔でプレゼント交換しました。

## いつまでもお元気で 東方小児童と高齢者が交流会

7月4日、東方小で6年生児童と特別養護老人ホーム陽光の里のデイサービス利用者との交流会がありました。ゲームで交流を深めたほか、同小の校歌や「ふるさと」などを児童がリコーダーの演奏を交え発表。じっと聞き入り、涙を浮かべる利用者もいるなど、温かい交流会となりました。

## 「ストップ！脇見ぼんやり運転」 三本松で交通安全キャンペーン

7月11日、国道221号線の三本松付近で交通安全キャンペーンが行われました。小林地区交通安全協会小林支部が主催したもので、会員や警察署など約30人が参加。内一幸支部長は「死亡事故ゼロを継続できるよう啓発したい」とあいさつした後、ドライバーにチラシなどを配布しました。



夏の交通安全県民総ぐるみ運動がスタートしたことに合わせて行われたもので、「てけてげ運転の追放」を活動の基本としています。

## 音を頼りにラリー応酬 サウンドテーブルテニス大会

6月26日、小林市視覚障害者福祉会による第13回親善卓球（サウンドテーブルテニス）大会がみどり会館で開催されました。サウンドテーブルテニスとは、音の出るボールを使った卓球に似たスポーツ。山下美智雄会長は「大会を通して、多くの人が親睦を深めて欲しい」と話していました。



大会には、県内の5市町に加え、鹿児島県や大分県からも参加。地域混合の6チーム33名が、汗を流し交流を深めました。

## 障がい者がグラウンド・ゴルフで 交流を深める

7月3日、生駒高原観光レクリエーションセンターで宮崎県身体障がい者グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。第6回となる今回は、26チームの130人が参加。さわやかな高原の風に吹かれて元気にプレーし、白熱した試合を展開しながらも笑顔で交流を深めました。



当初は、6月26日に開催される予定でしたが、台風接近に伴い7月3日に延期。待ちに待った大会の開催でした。



「すきばさみは引っ張らない」、「髪は濡らさずに切る方が失敗が少ない」等の美容師からのアドバイスを真剣に聴く受講生。

## 美容師がコツを教えます 乳幼児ヘアカット教室

6月22日、小林市中央児童センターでプロの美容師を講師とした乳幼児ヘアカット教室が開かれました。教室には18人が参加し、基本的な道具や自然な仕上がりにするためのテクニックを学習。馬場美千代館長は「母親のニーズに応えられる教室等を今後も開いていきたい」と話していました。



完熟マンゴーの収穫期は4月から7月。JAこばやし管内では34戸、栽培面積は約12.7畝で県内で4番目の広さです。

## 小林産完熟マンゴー 降灰被害に負けず上々の出来

6月28日、JAこばやしマンゴー部会が、肥後市長を表敬訪問しました。同部会員ら3名が訪問し、肥後市長にJAこばやし産の『太陽のタマゴ』を贈呈。松田泰一部会長は、「ハウスに灰が積もり、日照時間不足が心配されていたものの、糖度・色など品質は例年並み」と話していました。